



『広報葉山』12月号が全国広報コンクールで入選2席

— 町の広報紙としては全国5度目の入選となりました —



葉山町が毎月発行する『広報葉山』の12月号(令和7年12月1日発行)が、このたび「全国広報コンクール」において入選2席を受賞しました。

【全国広報コンクールの受賞歴】 令和3年12月号(特選・総務大臣賞)、令和2年12月号(入選3席)、平成30年12月号(入選1席)、平成28年12月号(入選)

今回評価された号の特集記事は、「選べる未来をすべての若者に」。若者が安心して自分らしく生きられる町を目指し、町民一人ひとりが自分にできることを考えてもらえるようにしました。日常の中では見えづらく、当事者も周囲も気づきにくい「18歳の壁」について、福祉の専門家や支援団体の方に取材を行い、現場で実際に寄せられる若者の声や、支援の現状についてお話を伺いました。「困っていても声を上げられない若者がいる」という現実を取り上げ、その声に気づくためには、町民皆さんの小さな行動から始められるということと呼びかけています。また、「人権＝人として大切にされること」は特別なことではなく、日々のあいさつや相手を信じる姿勢といった小さな行動の積み重ねから育まれるものだという人権擁護委員の方へ取材しました。

【講評(令和8年全国広報コンクール)】 表紙の美しい夕日を眺める若者の後ろ姿の写真が、せつなさと寂しさを感じさせる。若者についての特集につながっていくが、「18歳の壁」という結論の出づらい難しいテーマにチャレンジをした点がよかった。その姿勢を高く評価したい。若者の生きづらさについて調査しまとめた深刻な内容が記載されている。個人の活動に光を当てながら、行政側の方針や長期軸での対応も丁寧に紹介され、その姿勢には共感が集まったのではないかと感じる。書体がゴシック体で統一されており、広報紙全体が親しみやすく手軽に読める印象にまとまっている点も良い。美しい葉山の夕日をとりえた写真や、紙面にリズムを作るマーキングやポイント強調によるデザインも広報紙全体の魅力を高めている。

町では、今回の受賞を励みに、町民が互いを尊重し合い、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりに向け、今後も広報紙を通じた情報発信を強化してまいります。

問合せ 政策課 宮崎 (TEL内線 333)